

## □書 評

青森県立中央病院部長 山 口 保 著

# 実技を主とした腸管X線検査法

癌研附属病院長 黒 川 利 雄

山口保博士は、永年弘前大学医学部の松永教授の下で、研究生生活をされたが、特に、腸疾患の診療についてのエキスパートで、そのX線診断や、内視鏡診断については造詣がきわめて深いことはつとに国内はもちろん海外にも知られている。

青森県立中央病院内科部長に転出されてからも、好学常にやまず、着々として学問的努力をつづけておられることは敬服にたえないところである。

このたび、「実技を主とした腸管X線検査法」を上梓されたが、私も一本を得てその学問に対する熱意にうたれるものがある。

元来腸疾患の診断のよるべき根拠となるものは、X線と内視鏡検査法

にまつものがきわめて多いのであるが、多忙なる臨床家にとっては、やや困難性と時間を多く割愛せねばならぬ点によってあまり普及しておらぬ状況であった。しかるに松永教室はあえてこの困難性にいどみ、多数の新知見を報告せられたことは賞讃にたえぬところであるが、その主力となって研鑽された人々のうちの1人は山口博士であることもよく知られているところである。

今この著書を手にして思うことは、実施上きわめて困難と考えられていることが、きわめて平明にわかりやすく説かれ、何人でも今日からの臨床に応用されるように記述されていることである。

前処置としての下剤の使い方や、

浣腸の仕方からバリウムの処方に至るまで、懇切丁寧に詳述されており、そのとおり実施すれば必ずよいX線像が得られることになっていると思われる。

とくに小腸疾患は、看過されやすい部分であるが、それにも豊富な経験が語られており、結腸疾患については、腫瘍に関してはもちろん、近年きわめて重要視されてきた潰瘍性大腸炎のみごとなX線像を豊富に示されたことは実地医家にとっての最大の贈物である。

本書が消化器病に志す一般医家の好個の指導書であることを信じて広く推奨する次第である。

E 5 判 頁 138 図 2 写真 124  
¥ 2,500 ㊦ 90

医学書院刊